

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、私の一般質問を始めさせていただきます。今回、4項目について通告しておりますので、通告順に従いまして行っていきたいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

まず最初に、被災地支援についてお伺いいたします。

市長は演告で、8月7日、国は東日本大震災で発生した瓦れき処理に対して工程表が示され、8月21日、知事は震災瓦れきの受け入れについては具体的な手続を進めることはしないとの発言がなされ、市長は旗をおろされました。しかし、今、被災地は報道で見る限り、大変なときであります。市長は昨年11月末に瓦れきの受け入れを表明され、12月の議会冒頭で断念されました。その後、議会でもいろいろ議論がなされ、2月には陸前高田市市長が北方公民館で講演され、もうすぐ1年ということでもありますけれども、まだまだ被災地は何の復旧・復興もできていないということで講演をされました。最後に、どうか被災地のことを忘れないでください。皆さんの応援があるから、私たちも頑張ることができると言われました。

また、この議会におきましても、3月、瓦れきの処理なくして被災地の真の復興はあり得ないとして、市議会として決議し、議決までいたしました。その後、杵藤クリーンセンターがある朝日町の区長様方にも御説明をされたと聞いております。

そこで、今回、断念された思いについて、市長にお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

思い出せば去年の11月の終わりですかね、震災瓦れきの受け入れをぜひしたいということ某新聞にすっぱ抜かれて、それからいろいろありました。で、そのときはそんなに思わなかったんですけど、それ以降強く思ったのは、やっぱり合理的にせんばいかんということで、これは何度も言って、うまく伝わっていませんけれどね、被災3県で処理するのは大原則なんです。その次に、被災3県により近いところで瓦れきの処理を行うのは次の原則で、さらに、その近いところ、近いところということで、結果的にオールジャパンとして支えなきゃだめだということで、私たちはその声を上げたところなんですけどね。

ですので、合理的に言えば、今回の政府並びに県の決定ということは、私は非常に腑に落ちます。しかし、人間の感情として、きずな、きずなて言いよってね、みんな言いよったわけですよ。言いよって、いざ自分のところに来たら、いや、自分のところはだめだとか、どうということかということを一の大人と——これは政治家というよりも、一の大人として私は問題提起をしました。武雄みたいな小さなところで、しかも、離れたところが声を上げると、これが必ず燎原——野原に火がつくごとくね、全国に広まっていくということは思いました。まあ、これは広まり方もいろいろありましたけれども、その意図は、陸前高田市市長

からお話を聞いても、武雄は非常に被災地支援には市民が熱心に取り組んでくださっているということは、東北の皆さんたちは異口同音におっしゃってくださっています。そういう意味で、本当に私は市民の皆さんたちに感謝をしたいと思っています。

その一方で、3月14日に武雄市議会が、3月11日で1年たったわけじゃなかですか。そのわずか3日後に受け入れの、動かす決議をしていただいたこと、これも重ねて感謝をしたい。あそこでやっぱり火がつかしましたもんね。火がついて、そして全国で、もっと近いところが対応しなきゃいけないということになったということは、武雄市議会のやはり力のおかげであります。

そういった意味で、私自身はもう無念とかという気持ちはありません。ですが、一方であるのは、やっぱりそれでも、NHKでもやっていたけどね、まだ瓦れきが復旧・復興の妨げになっておるわけですよ。ですので、我々ができることで、できることを精いっぱいやるということ、それと、さらに言えば、もっとそれが、震災瓦れきがね、対岸の何とかとなって恐縮なんですけれども、広まっていくということをぜひ期待したいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当に、現在報道されている東北地方の復興にはまだまだ時間がかかり、瓦れきもたくさん残っている状況であります。そこで、武雄市では特に大震災発生当初から義援金、また食料、また飲料水などを被災地に送り、また、福島の子どもの受け入れやチーム武雄によるボランティア活動で、たくさんの市民の方の御協力を得、参加していただきましたことに対して心よりお礼申し上げたいと思います。

そこで、チーム武雄の今後の活動方針はどのように考えておられるか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ことは、これは陸前高田市役所に出向している古賀龍一郎と協議をしていますけれども、ことは、陸前高田とすれば、10月20日から10月21日に開催される全国太鼓フェスティバルというのがあるんですね。これで日本中どころか、世界中から人が集まってくるという中で、我々とすれば10月19日から22日までの日程で、チーム武雄としてその開催のお手伝い、ボランティアの応援に行ければいいなと思っています。いろんな、去年の今ごろは瓦れき撤去とか、小石の除去とかということになりましたけど、陸前高田の場合は一定もうこれは終わっています。あとは、例えば塾であるとか、あるいは保育であるとか、そういったソフトの足りない部分というのがある一方で、こういうイベント関係でなかなかやっぱり陸前高田

といえども人がちょっと集まりにくい状況にあるという中で、先ほど申し上げましたように、古賀とよく話をいたしまして、今回は10月19日から22日、これについてはチーム武雄として出ていただくこととなりますので、当然のことながら、あしらい等のお手伝いはしていこうと思っております。市民の皆さん方もお時間が、余裕があられる方はぜひ参加をお願いしたいと思っております。

この一方で、さまざままだあることはあります。あるので、それはもう個別に私どもの被災者支援課で相談を承りたいと思っておりますので、ぜひ個々をお願いをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

古賀さんと、もう1人は上田さんでしたかね、2人がことしの4月から陸前高田市で頑張っておられると聞いております。これは先月の終わりやっただすかね、STSで上田さんの放映がなされました。それで、あと古賀さんは何か新聞には載ったということでございますけど、現在の活動状況についてお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

前の市長秘書官だった古賀龍一郎は、現在、市長の右腕として頑張っています。特に広報、陸前高田もフェイスブック化、FB良品RIKUZENTAKATAというのを開設して、武雄と並ぶぐらいの今人気が——向こうが上かな——ありますけれども、それは全て古賀龍一郎がやっています。ですので、市長の右腕、右顎として、どんどんこう言っているんですね。やっぱり発信がないとだめらしいんですよ。ですので、古賀龍一郎が着任してから、陸前高田の発信量がさらにふえています。

一方で、上田哲也につきましては、今、観光課で頑張っています。特に彼は、人柄といえど石橋幸治か上田哲也と言われておりますので、そういった中で非常に好かれていて、みんなからかわいがられていて。で、結局、サガテレビがですね、上田君とかを紹介しようという気は全然なかったらしいんですよ。行って、佐賀つながりで上田哲也が紹介ばしたわけですよ、いろんなところに。そいぎ、サガテレビがですね、上田哲也の人柄に感動して、もう上田哲也の特集がよかばいということで、この前のサガテレビの放映になったわけですよ。ですので、彼は今、観光課で、これはテレビにも出ていましたけれども、ホテル、簡易宿泊所ですよ。あの開設等に当たっています。

両名とも、もう1人の古賀龍一郎は西日本新聞を初めとして、「ひと」、あれ一般職の公務員で「ひと」の欄に載るといっはないですもんね。武雄市は生まれて初めて載ったのが、

きょういるかどうかわかりませんが、初代のがばい課長の白濱なんですよ。で、その次なんですね。それぐらいやっぱりインパクトがある話なんですね。ですので、そういう中で非常にうれしく思っておりますし、ただですね、やっぱり非常に困難なところであります。ですので、そこをうまくケアしながら、やっぱり乗り切ってほしいということで、我々自身も一生懸命応援をしている次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、テレビを見ていると元気で、何か頑張っているような気がしておりました。

そこで、同じ陸前高田市に派遣された盛岡の職員の方が、希望して被災地に行ったが、役に立てずに申しわけないというような遺書を残して自殺したというような新聞報道が載っております。やはり2人は武雄市の代表として、陸前高田で頑張っておられます。やっぱり市としては手厚いサポートが必要だと思いますけれども、今後どのようなサポートをしていけるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは御指摘のとおりで、私も盛岡の職員が亡くなられたというのを聞いて、非常にショックを受けました。私も何度か行ったことがありますけれども、もう大変な職場です。職員の皆様方はもともと通常業務に加えて、やっぱり自分の御家族を亡くしたりとか、仮設住宅に入られたりとか、そういう方々ばかりなんですね。しかも、さっきの話に戻しますと、予算の規模が10倍以上に膨らんでいるわけですよ。人はもう3割、4割減っているわけですね。で、予算は10倍以上ふえている中で、物すごい緊張感の中で仕事をされております。その中で、先ほどお話をしております2人がそこで頑張っていますので、我々としてもつながりがちゃんとできるようにしたいと。特に、議員の一部におかれましては、やっぱりそこに、現地に行ってもらったりしようわけですよ。これが物すごくやっぱり効きます。ですので、ぜひ視察等があればですね、もう陸前高田に行っておくんさい、良広さん。

ですので、そういうことですね、やっぱり自分たちが目をかけるということがすごく大事。これが1点ね。2点目は、古賀も上田も、フェイスブックとかメールとかを自由自在に使いこなせますので、そこでのつながりは我々、あるいは我々以外とでもあります。一方で、これは政策部が心してやっていますけれども、5月の連休であるとか、この前のお盆であるとか、次は正月になります。これはどんどん帰ってきてくれということです。やっぱりですね、私も出向の経験がありますけど、ずうっとそこにいたら煮詰まってしまうですもんね。そいけん、一回やっぱりふるさとに帰ってきて、もう一回やっぱり気持ちを新たに、ま

た戻っていくということで、これはうまくやっていますし、これは陸前高田市長もね、ぜひそれは長い期間やっぱり休みをとって充実して、もう一回戻ってきてほしいということを常々言われていますので、そういう部分は大丈夫だと思います。

で、陸前高田においては、今、メンタルチェックであるとか、いろんな所属長の面談であるとか——まあ、でもこの2人は大丈夫ですよ。そいけん、余り心配し過ぎることが逆にようなかかなと思っていますので、やっぱりつかず離れずという言い方は別にしてもですね、絶えず我々はちゃんと見ていますよということで、我々はケアをしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、私も上田さんと古賀さんとは当初仙台でボランティア活動したときに、やっぱりすばらしいしんのしっかりした力強い2人だとは思っておりますけれども、先日のテレビでは、最後に、どうか佐賀県の皆さんで言われたとかわかりませんが、一度現地を見に来てくださいという言葉が言われました。本当我々議会としても、こういう市から出している職員に対しては、やっぱり我々自身も行って力づけ、頑張っていたらいいように、我々議会としても頑張っていくようにしたいと思いますけれども、市長どのように思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど答弁すればよかったんですけど、そのサガテレビの放送については、ちょっとサガテレビのお許しが得られればですね、ぜひ庁内で、特に2階のホールとか公民館で流したいと思っています。本当によかったです、あれ。見よってやっぱり涙の出てきたですね。よくいじめられて涙することがありますけどね、あれは本当に感動しましたよ。ですので、きょうの午後から流したいと思っていますので、ぜひこれをごらんになられている方々は、議会をごらんになる——議会はこちらでも見られますので、ぜひ傍聴かたがたお越しいただければありがたいと思っています。きょうから1週間流してまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、頑張っている姿を市民の方にもやっぱり見ていただくのがいいんじゃないかと思えます。また、我々議会としても、できる限りのサポートをしていきたいと思えます。

次にですけれども、ことしの7月、九州北部地方で集中豪雨が発生し、たくさんの死者、不明者が出ております。武雄市としても、また被災地として熊本市の龍田地区だったと思

ますけれども、被災者支援が行われておると聞いております。残念ながら私は参加者が多く参加できませんでしたけれども、どれくらいの方が、武雄市の方が行かれたのか、御報告をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

熊本市に行っていましたけれども、これはもともと九州巨木物語で熊本市とおつき合いがあって、私も市長さんには非常に直接御指導をいただいております。そういった中で、熊本市の特にひどかった北区の龍田地区という、テレビによく出ていましたけれども、そこに復旧支援にボランティアを募集して派遣をいたしました。7月21日土曜日から25日水曜日までの期間に、市民36名、市職員26名で、議員さん3名ということで、延べ65名を派遣させていただきました。

民家の――これは仙台の若林区に行ったときも、当時は牟田議長さんを中心にして行ったときなんですけれども、床下の泥かき出しとか、まあ、あと掃除ですよ。これを中心に行ったということで、これは先ほどお話がありましたように、山崎議員さんとか、私もちょっと行こうということを思っていたんですけれども、思いのほか早く復旧が終わりまして、で、もう結構ですということをおっしゃって、これはこれですごくいいことだと思いますので、もう少し期間が長ければ、多分延べ100人超していたと。実際これ派遣をして、私どもの職員で熊大出身の浦郷君とか大野さんたちが行ったときに、地元のテレビで武雄市ばかり映りよったらしかですもんね。ですので、そういう意味で顔の見える貢献ですよ、というのが今すごく求められている。

しかも、やっぱりですね、こがんときに助けとかんぎんたですよ、絶対自分たちが何かあったときに手は差し伸べられんですもんね。そいけんが、私は「情けは人のためならず」と本当に思います。それをかこつけて言うつもりは全くありません。しかし、市民の皆さんたちにぜひ思ってほしいのは、雨天のときは真の友と思って。やっぱり人が困ったときに手を差し伸べるということが絶対今必要だと思っていますので、そういう思いからでもですね、まあ、これは末藤消防団長がよくおっしゃいますけれども、やっぱり人が困ったときに手を差し伸べるということをぜひ私自身も自戒しながらやっていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、武雄市は特に常襲水害地帯であり、いろんな災害も出ております。これがもし、もうちょっと北部で武雄地区とかだったら大変な災害が出ていると思います。そういうときの

ために、やはり市長が今言われたようなきずな、助ければまた助けていただけるという、日本人が一番大切にしなければならぬことが今後もできてくるんじゃないかと思っておりますので、どうか今後とも被災地支援、また被災者支援に対しては、市でできる限りの支援をしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

続きまして、その水害対策についてお伺いいたします。

武雄市でも同じ6月24日と、あと7月13、14日でしたか、市道、国道、また家屋などが浸水し、大変な被害が発生しました。現在、武雄市の中でも六角川というところには、いつも潮の満ち引きで内水被害が頻発しております。国土交通省としましても、六角川と牛津川、合わせて52カ所、毎秒350トンの排水ポンプが設置され、排水しておりますけれども、到底おぼつかない状況にあります。

そこでお伺いいたしますけれども、昨年の8月11日に六角川水系河川整備計画の原案が公表され、8月11日と、その後、住民との意見交換が行われてまいりました。また、昨日、9月2日の新聞では、洪水対策として「六角川水系に新遊水地 2カ所整備へ」という記事も載りました。そこで、六角川水系河川整備計画はどのような内容の計画か、また、策定はいつされたのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

河川整備計画は、今年8月16日で全ての認可を得て策定されております。

内容につきまして申し上げます。

計画期間は、おおむね30年ということになっております。

主な内容でございます。3点ございます。

まず、1点目が溝ノ上調整池により、最大流量130トン进行カットするという事です。これについてはどういう効果があるかといいますと、新橋付近で約70センチの水位低下が図られるだろうと。ということは、内水域の内水が、自然流下が長くとれるということになるかと思っております。具体的な小さな数字については、まだ発表されておりません。

2点目を申し上げます。2点目につきましては、その洪水調整池を設置した後、河川に余裕が生じますので、その後に高橋排水ポンプを現在50トンから11トン増加するというような工事が予定されております。これによりまして床上浸水を解消するという事でございます。

3点目でございます。これは流域全体の問題でございまして、河川ではこれ以外にはもうなかなか対応できないということで、今度は流域全体で対応するものは何かといったときに、やはり農業用ため池、あるいはクリーク等でございまして、これにつきましては、武雄市でも約180ぐらいのため池がございまして、これを何とか洪水時に調整できないかというような

案でございます。しかし、この農業用水につきましては、根強い水利権の問題がございますので、相当な時間を要するんじゃないかなというふうに考えているところでございます。

なお、この件に関しましては、ごみ問題——ヨシのごみ問題ですね——等含みまして、河川事務所あるいは流域自治体で既に勉強会を始めております。

なお、この工事の実施時期でございます。調整池につきましては、現在営業中でございます。採掘権が平成28年までと聞いておりますので、そのころが着手時期じゃないかなということで予想をしているところでございます。

なお、河川整備計画につきましては、今回の河川整備計画はおおむね30年確率、30年に1回程度の雨量を対象とされております。これは昭和28年豪雨災害でございます。この水量を安全に河道に流すという計画でございます。

また、参考でございますが、本年7月の洪水におきまして、牛津川で相当な洪水が発生しております。これにつきましては、既に牟田辺の遊水地、これは65万トンをためたということと、それから、河道の掘削が20万立米程度なされておりました関係で、国道34号の牛津大橋付近で約75センチの水位低下があったという情報が発表されております。そういうことで、この河川整備計画については大いに期待したいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当にこの計画が策定されたということで、また、新聞にも大きく載ったということで、市民の方々並びに地域の方々も大変喜んでいらっしゃると思います。しかし、先ほど答弁でありましたように、平成28年までが事業が——事業じゃないけど、それまでが期限ということで、それまでは事業者がそのまま作業を進めるということになるわけですよ。そして、もし策定されて、今から——今年度24年ですから、28年は4年後ですよ——4年後に、例えば、4年間は営業を続けてもいいですよ。その間にいろんな契約はできないものか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

実施時期の問題でございます。先ほど申しましたように、採掘権が許可があって28年までということになっておりまして、私たちといたしましては、河川事務所からの具体的な工程は示されておられません、その以前に測量あるいは設計に入っていただきたいという要望はいたしております。しかし、御存じだと思いますが、あそこが権利がふくそうしております。営業はしている、借地はあるとかですね、自分の土地もあられますけれども、そういう関係がございまして、補償関係についてはかなり複雑な問題が生じてこようかというふうに考え

ております。したがって、こういう問題を河川事務所に提起しながら、あわせて調査関係とあわせながら並行していきたいというふうを考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当ですね、これは地権者とか、所有権や営業権などの問題もあって、いろいろと時間がかかるということではございます。今出ました牟田辺の遊水地にしても、最初は5年間で計画してあったものが、最終的には10年間かかって強制執行したところもあるということではございます。

武雄市としましては、これまでずっと常襲水害地として市民の皆さんに御苦勞をかけております。そこで、長いスパンを見て、10年と言われれば28年から38年までということになります。近年の気象状況から見ますと、何とも言えないゲリラ豪雨が突然発生するという事態もありますので、この辺は市長、強く国土交通省などには要望できるものか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

要望はできます。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

ありがとうございます。それでは今後、調整池並びに高橋川のポンプの増設を強く、我々常襲水害地特別委員会もありますけれども、調整池等促進期成会もございますので、しっかり要望して、早期実現を目指すように頑張ってくださいようお願いいたします。次の質問をさせていただきます。

次に、特に橘町では、毎年のように大雨のときに道路、田んぼ等が冠水し、そのたびに鐘撞川排水樋管や釈迦寺排水樋管付近では、アズが堆積するところでございます。（モニター使用）皆さん、ちょっとアズがこういうふうに出てきて、これは多分ここが片白かな、あそこは釈迦寺の薬屋さんですね。これが鐘撞川でございます。そして、すごい量が流れ込むわけですね。最終的にはこういうふう田んぼの中に堆積し、これを片づけるためには相当な労力が要り、地元の人でも大変困っております。

そこで、この大量のアズが流れ込んだ場合、それに対処する制度があれば御説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

アズの対策についてですけれども、麦わらの処理につきましては農地にすき込むということをお願いをしておるわけですが、時期によっては大雨と重なって、下流の農地へ堆積するというふうな状況が発生しております。そのことによって農作物や道路、水路等へ被害が発生しております、農地所有者や関係区の方でアズ撤去に御苦労いただいているというふうなことが今現状ではないかと思っております。

市としましては、本年度より農地農業用施設小規模災害応急工事という補助制度を設けまして、農業者や農業者の組織する団体が実施するアズ撤去にかかった費用の一部を補助することにしております。内容につきましては、撤去にかかる労務費、車両等の借上料など、費用10万円以上40万円までの8割を補助するというふうなことでなっております。被害の拡大を防止するためにも、早急な応急対策が重要であるというふうに考えております。活用していただければというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当こういう8割ですか、補助をしていただけるということは大変いいことではございません。去年は——昨年やったと思いますけれども、大量のアズが出て、市の補助金では足らずに、ここの東川流域7区の皆さんに一律に負担していただいて処理をしたという経緯もあります。本当これは水害で災害のうちでありますので、できるだけ個人の負担が少なくなるような対策も今後も考えていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは次に、そのアズに関連してですけれども、釈迦寺の排水樋管の防護柵についてお伺いいたします。

（モニター使用）ここにありますが、これが釈迦寺の排水樋管の安全防護柵ですかね。これを見ますと、物すごく間隔が狭いんですよ。通常のガードパイプよりも狭くて、それで、もしアズが発生した場合には、ここにアズがかかり、物すごく排水するにもこのアズで妨害されるわけですよ。見ますと、これなんですよ、ここ。アズを撤去して、それから排水しているような状況であります。

そこで、私は何度もこの現地に行ってみますけれども、これは実際、安全防護柵なのか、アズどめでできているのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

その防護柵につきましては、私は安全対策のために設置されているというふうに聞き及ん

であります。かなり川底まで深いということで、このような対策になっているということを知り及んでおります。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

それは、深いですから安全対策、アズどめじゃないということですね。多分、普通のガードパイプ等になれば、ピッチが約30センチぐらいのピッチになって、物すごく幅が広いんですよ。これは20センチで、この間隔が18センチしかないんですよ。そしたら、もしこれをすごく広くしても、安全防護柵ならば広くできると思いますけど、それについてどう思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

確かに間隔が狭うございまして、一つ考えられるのは、安全対策と、それから大きな木等が流れないようにという措置もされているかなと思いますけど、これにつきましては、河川事務所の間をあかすように、ちょっとすかすようにお願いをしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、私が見ても、多分もう少し広くしても安全は確保ができるような構造になると思いますので、この辺は強く河川事務所のほうにも要望をしていただきますようお願いいたします。

それでは、次のイノシシ対策について質問させていただきます。

これまで武雄市では、イノシシによる被害の軽減を図るため、いのしし課を設置し、捕獲やその肉のブランド化などに支援していただきました。しかし、わなで捕獲するイノシシの約8割が生後半年までの子ども、通称ウリ坊です。ということで、親のイノシシはなかなか捕獲されにくいということで、ことし2月から1人当たり年間100頭の成獣を捕獲する目的で、非常勤特別職として捕獲専門部隊が発足されました。

そこで、ここ3年間に捕獲された頭数とその内訳、また、捕獲専門部隊のこれまでの成果について御報告をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

平成21年度の捕獲頭数につきましては837頭ということで、うち20キロ未満、これはウリ坊ですけれども、473頭です。成獣が364頭となっております。平成22年度におきましては3,464頭、20キロ未満が1,827頭、20キロ以上が1,437頭、平成23年度につきましては1,869頭、20キロ未満が1,293頭、20キロ以上が576頭となっております。

鳥獣被害対策実施隊の捕獲頭数ですけれども、これは8月末現在で捕獲頭数が340頭ということで、うち20キロを超える頭数、成獣が177頭というふうなことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

今、さっさかさと述べられましたけれども、なかなかわかりづらかったんですけれども、3年間のうちにやはり成獣はなかなかとれていないということでしょうね。それにこの専門部隊のとった成果は、ちょっともう一回お願いいたします。トッテクレンジャーですかね、彼らがとった、ちょっと私、177頭まではわかったんですけれども、もう一回答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

8月末現在でイノシシの捕獲頭数が340頭ということになっておりまして、うち20キロを超える成獣が177頭というふうなことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

この捕獲専門部隊ですか、340頭と、3名ですけれども、本当に頑張っていらっしゃると思うんですね。そのうち20キロ以上が177だったですかね。こういうふうになると、やはり今までのわなで捕獲する人、この3名は多分銃で捕獲される人ですね。（発言する者あり）この捕獲専門の方は銃でとられる頭数ですよ、これは。どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

捕獲専門員につきましては、銃の免許を持っておられる方は銃でとりますけれども、あとは箱わなとかで捕獲されております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

この専門隊は多分銃の免許を持ってある方から選抜したわけじゃないんですかね。多分、私はそう思っていますけど。だから、意外と銃でとっているから、大きな成獣が数多くとれているんじゃないかと思います。この企画に対しては、本当、金もかかっておりますけれども、素晴らしいアイデアであります。

そこで、この方たちの頑張りもありますけれども、また、ことしからイノシシパトロール隊が多分3名体制で巡回をしておられると思いますけれども、この3名で今までのように市全体の被害状況の調査や苦情に対する対応は十分なされているか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

平成24年5月より緊急雇用創出基金事業を活用しまして、3名のイノシシパトロール隊を結成しております。21年から23年につきましては、8名の方をパトロールでお願いしていたところでありまして、鳥獣被害対策実施隊を5名一応採用しております。その分と合わせまして、今、8名のパトロールが実施できるようになっているところでありまして、また、猟友会の協力を得ながら、イノシシ対策に取り組んでいるところでありまして。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

どうもすみません。私がちょっと認識不足です、この専門部隊は5名で言われたですね、今。私は発足当時の3名ということで、ちょっと今質問しておるわけで、あと2名は、そしたら箱わなの方も入っておられるんですかね。お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

鳥獣被害対策実施隊、トッテクレンジャーですけれども、平成24年2月に3名を採用しております。その後、24年5月に再度2名を採用しまして、今現在で活動をされているところでありまして。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

どうもすみません、私の認識不足で。

このイノシシパトロールという方々の仕事は、普通の広い道を回るんじゃないかと、意外と山道とか、何か危ないようなところを結構回っていらっしゃるんですよね。そこで、1人ずつ車に乗っておられると思いますけれども、その分に対してですよ、なかなか、もしそこで

離合できなくてかやったり——山の中ですね——した場合、やっぱりどうしても1人じゃ何か危ないところ——危ないところじゃないですけども、何か心もとないような気がするんですよ。そこで、私はこのパトロールさんの今までの業績からすれば相当な仕事をしていらっしゃるんで、できれば2人体制にさせていただければ、もっとイノシシ被害、鳥獣被害も少なくなるんじゃないかと思っておりますので、どうかその辺も御検討をよろしくお願いします。

次に、この2月の時点だったと思っておりますけれども、捕獲報償金を3段階に変えてするというようなことを聞いておりました。現在、その報償金はどのようになっておるのか、また、どのような経緯で各個人に支払われているのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

イノシシ報償金の額につきましては、1頭当たり7,000円。ただし、40キロ以上については8,000円ということになっております。報償金につきましては、捕獲実績に基づきまして、武雄地区有害鳥獣広域駆除対策協議会のほうから猟友会各支部に支払っているところであり、猟友会各支部から各猟友会の方へ支払うというふうなことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

ありがとうございます。やはりこれは猟友会の方がおって、本当、駆除が成り立っているというのが現実でございます。猟友会と市、それと猟友会会員がタイアップして、また今後も成果のあるような働きをしていただきますよう、市に要望しておきます。

それと、2年ぐらい前だったと思っておりますけれども、イノシシ犬を訓練に出されたという経緯がありますよね。そのイノシシ犬の、現在どのような使われ方をされているのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

すみません、ちょっとモニターで説明をしたいと思います。

（モニター使用）平成23年7月より4カ月間、山口県のほうで追い払い犬として2頭の犬が訓練を受けて、現在は市の施設、これは山内支所ですけども、そのほうで飼養をしているところであります。

この活動につきましては、ワイヤーメッシュを今設置しておりますけれども、その柵の内側に入ってきたイノシシの追い払い、あるいは民家の軒下の中に入り込んだ小動物の追い払い等に出動をしているところであります。現在、6件程度の出動をしているところであります。

す。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

こう見ますと、何か大型犬みたいな感じですけども、ただ、これを手懐けているじゃないですけども、指揮をしている方はどういう方がして——世話役ですかね、世話をしている方はどういう方ですか。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

この飼養をしている方につきましては、イノシシパトロール隊のほうで飼育をしているということになっております。パトロール隊によって現地と一緒に行って、一緒に活動をするというふうなことになっております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

そうですか。もし自分の部落のどこどこにイノシシがいつも来てということになれば、イノシシ隊にお願いしたら、この犬を連れてきていただいて追い払ってくれるということですよ。もしこれ、それこそイノシシパトロール隊も数が少ないですので、できればこの犬を家とか地域に貸し出すとかいうことを考えれば、何もイノシシパトロールの方がわざわざ連れて行って、最後連れて帰るんじゃないくて、二、三日でも家に置いておけば、それが解消できて、終わったら返すようなことは、（発言する者あり）かみつかれて大変なことになるかもわかりませんが、その辺も考えられると思います。その辺についてはどう思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

追い払い犬を地域に貸し出すということですけども、やはり指導されている方がいらっしゃると思いますので、一緒に活動するというようなことが原則でありまして、現在どのように公務員犬を活用できるか、指導機関とも調整をしながら検討をしてみたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあ、大体役所が検討するという事は、しないということですから、ちゃんと私から言いますよ。

これは、すごい実は大事な事だと思っていて、公務員、これは秀島が一生懸命頑張って、自分のところでもトレーニングするぐらいして、かなりやっぱり効果が上がっている。しかし、名前は忘れましたが、タロウとハナコでしたっけ、ハナコとジロウだっけ。まあ、これはどうでもいいです。やっぱり2頭だと多勢に無勢なんです。ですので、こういう直轄型の公務員と、もう1つ、派遣型の公務員をやらなきゃいけない。だから、犬も結構山口県にそういう、あるんですよ、トレーニングセンターがあって、そこに——これはそこともちょっと調整しなきゃいけないんですけども、例えば、お持ちのワンちゃんをそこで養成する、あるいは我々が養成をして、それを貸し付けるということはあるのかなということをおもっていますので、拡大方策についてまじめに考えようと思っています。ただ、これは相手のある話なんです。山口県のトレーニングセンターであるとか、あるいは先ほど部長からあったように、ここは真つ当なんですけれども、実際トレーナーと一緒にいないと、これは多分発動できないんですよ。ですので、人の問題もありますので、なかなかこれは難しいハードルがあると思いますけれども、トライはしてみます。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、せっかくこういうふうに訓練された犬も用意してありますので、活用をできるだけ多くしていただくようお願いしたいと思います。

次に、教育行政についてお伺いいたします。

教育行政についてですけど、いじめ問題ですよ。今回、大津市における、中学生がいじめによる自殺という問題が大きく取り沙汰されております。私自身、小学校、中学校というのは、人間関係を豊かにし、やっぱり安全であるというのが学校の原則じゃないかと私は思っています。

そこで、このいじめによる自殺、私にはなかなか理解ができないところではございますが、こういう子どもたちのいじめによる自殺について、市長、教育長はどのように思われるのか、まずお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、大津市におけるいじめでの自殺事件は、中学生がみずから命を失うということですので、本当に残念で、まさに学校は安心・安全が基盤であります。そこができなかったということでありまして、改めてこの大変さをかみしめているところで

ございます。

御存じのとおり、何年か置きに起きまして、そのときにはいろんな対応をしたりしてきているわけでありませけれども、いじめ、いろんなことが含まれるわけですがけれども、なかなかなくなるというような状況もございます。

教育委員会として、この事件の動向を見たときに、教育委員会としての対応についても他山の石として学ぶべきことがいろいろあるように感じておりますし、学校が抱え込んでいるんじゃないかとか、あるいは教師の体制としてどうなのかと、改めて学校とともに、先生方とともにやっていける、保護者の方とともにやっていける、そういう信頼関係を築いていかなければいけないと非常に強く思ったところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

大津の事件は本当に不幸なことだと思っています。最近では札幌であったりとか、ちょっといろいろあって、本当に心が締めつけられているんですけども、今からの回答は一般的に申し上げたいと思うんです。

いろんな問題が、武雄の中でも当然あります。そのときに、やっぱり問題のある子は家庭が物すごくグリップ力の弱うなっとうとですよ。ですので、余り学校に押しつけるのはいかがなものかということは思います。何でんかんでん、このごろ学校のせいになりかねんとです。ですので、そうなってくると、学校は物すごくそこは慎重になって、バリアば張るごとなるわけですよ。子どもたちに対しても、地域に対しても、行政に対しても。もう何でも悪かとは学校とか学校の先生ですもんね。

ですので、これはぜひお願いなんですけれども、何かそういうSOSの信号を発したときには、家でわかると思うんですよ。ですので、そういう意味で家庭ですよ、これはもう絶対大事と思っています。その一方で、そうはいつでも、じゃあ、家庭任せにすればいいのかというのは、さはさりありません。ですので、これはありきたりの言い方かもしれませんが、学校、家庭、それと地域、で、あと私、行政ですよ、この連携というのは絶対に必要だと思います。要するに、子どもたちがやっぱり自分は見捨てられとらんと、いつも背中視線を感じると。前からじゃなくてもよかけんですよ、そういう何かつながりというのは絶対に必要だと思っています。

最後にしますけれども、私、時間があれば、このごろしょっちゅう学校に行きよつですよ。学校に行って、じゃあってあけて、中にも入っていきます。そいぎですね、もうわかります。ああ、このクラスは問題のああばいとか、それはすぐわかります。それは何でわかるかといったら、毎日毎日行きよつたら、多分わからんですもんね。ですが、例えば、二月に一遍とか、三月に一遍行けば、変化のわかるわけですよ。で、やっぱり学校の先生とか、知っと

う親御さんに聞くぎんた、あそこは子が問題ですもんねて言いんさあけんですよ、そういう意味で我々が、やっぱり大人ですよ、みんなが行けるとは思いません。思いませんが、議員さんであるとか、我々はやっぱりどんどん学校に行くべきだと思いますよ。中に入るところまではせんでよかかもしれん。その教室の中まではですね。ですが、やっぱり廊下から見るとかね、これも教育委員任せじゃなくて、我々がそういう地域の、地元の学校に行くと。多分遠慮しとんさあと思うとですよ。遠慮しとんさあと思いますけど、うちは遠慮は要りません。そういうことで、やっぱり見られているという、応援をしてもらっているというのは形でやっぱり示すべきだと思っていますので、ぜひ休み時間とか会ったときに声をかけるとかということは絶対に必要。

これは、北方の区長さんたちが心がけてしよんさあですもんね。北方の松田区長さんを初めとして、例えば、扇風機を贈ったりするときでも、自分たちが学校に行って、見よったら、子どもたちとやっぱり声ばかけ合いよんさあですもんね。これはやっぱり大人の世代がそういうふうにちゃんと見ていますよというメッセージを発するというのは、直接ですね、すごく大事だと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、何とも言えない事件であり、行政としても、我々議員としても、また、親としても、いろんなところでアンテナを張って、その予防に努めていかなければならないと思います。

そこで、現在、武雄市ではいじめ等がどれぐらい認識されているのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

昨年度は、武雄市内の小・中学校からいじめとしての報告はあっておりません。今年度は、いじめの報告が1件あっておりまして、学校では継続して対応してもらっているというところでございます。

ただ、私どもがいじめとしてどういう状況を想定するかというと、これまでのことから、冷やかしかからかい、悪口やおどし文句、嫌なことを言われる、これが一般的には一番多いわけですね。それから、仲間外れとか、集団による無視ですね、それから、軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりするとか、あるいは金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。それから、最近ではパソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされると、こういうような内容を考えますと、報告としては非常に少ないわけですがけれども、学校生活だけでなく、校外の生活であっても、あっておかしくないわけですので、きちんと報告して、保護者の人とかと一緒に対応して、今後にかかしてい

くという形での報告を行ったのが1件という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当1件という、少ないと思えば少ないですけども、やっぱり1件でもあったということになれば、いろんなこういう問題も出てきますので、なかなか大変だと思います。また、このごろ新聞報道によりますと、他市ではアンケートをとったり、また、第三者委員会などの常設などを考えられておりますけれども、武雄市としましてはどのような対策を考えられているのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これからの対策でございます。まず、いじめの場合に早期に発見できるかと、早期に対策が打てるかということが一つポイントとしてございます。今お話にありましたように、アンケート等についても、学校によって形は違いますけれども、いじめを含んだアンケートもありますし、いじめそのものを聞くアンケートもございます。そういうアンケート調査、年に最低2回はあっているようでございます。早期発見に努めると。それから、教育相談という形で面談をほとんどの学校はやっております。それから、その次に対応しなければいけない場合というのが当然あるわけでありまして。学年で対応するか、あるいは全校で対応するか、そういうことのそれぞれの情報を共有して、各学校で取り組んでいるということでございます。

それから、いじめということだけに視点を置くと、やっぱり厳しいものがございます。実は昨年、一昨年と県の補助を受けまして、心といのちの健康を育む武雄プランという事業を行いました。5つ部会をつくりましたけど、その中の一つに命の尊さ教育部会というのをつくりまして、例えば、この中に出てきた教材とか見せてもらいますと、流産してなかなか子どもができなかったけれども、この子はその後で生まれた子なんですよというようなお母さんの話を聞きますと、やっぱりいじめ切れないわけでありまして。そういう命のとうとさとかというようなことを、やっぱり片方にきちんと植えつけておくことによって、いじめ等にもつながらないという、そういう子どもたちを育てていくことができるんじゃないかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、いじめという言葉自体がやっぱり軽かですよ。平仮名で「いじめ」てしたときに、

やっぱりぴんとこんばってんが、漢字で書いたら物すごい厳しい言葉になるわけですよ。しかも、今問題になっているいじめというのは、あれは傷害ですね、傷害。傷害だったり、恐喝だったりするわけですよ。脅迫だったりするわけですよ。ですので、それをもっと子どもたちが認識する必要があるだろうと。ああいう軽い、全部今、平仮名になりよるでしょうが。おかしいですね。ですので、やっぱり言葉の持つ意味というのをしっかり、これは我々も認識しつつ、子どもたちも認識するということが、これは大人の世界、子どもの世界、僕は関係ないと思いますよ。

それと、さっき議員さんからありましたように、何たら委員会て今結構できよるですもんね、対策委員会。これは、僕は反対です。というのは、行政に何とか委員会てするとは屋上屋になりかねんとですよ。ですので、こういう指揮命令系統というのはシンプルが一番いいです。要するに、情報がしっかり共有できて、すぐ対策を打てるということに関して言えば、今、武雄市はそういう意味では割と理想的な状態になつてますよ。なぜならば、教育委員会が教育長を中心としてあります。で、市長部局にはこども部があります。ですので、こども部と教育委員会ときちんと連絡調整をしながら、行政としても手を打ちますと、あるいは教育委員会、学校の先生の中でも手を打てますと。それが一緒になって手ば打たんぎ話にならんわけですね。

ですので、やっぱりですね——ただ我々が足りないところは、やっぱり共有がまだ足りないんですよ。ですので、そこはやっぱり今度の大津事件とか、札幌の事件をかいま見たときに、じゃあ、いつもそういう共有ができていたかといったら、そこは私の力不足でなかなかできていませんので、そこはもっとしっかり共有をしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、こういう子どもの命が奪われる事件や事故、今、物すごく多く発生しておりますので、子どもたちにも、また親にもじゃないですけども、命の大切さ、とうとさをもう一度見詰め直せるような時間を学校でもとっていただければ、少しでも減っていくんじゃないかと思っておりますので、その点もよろしく願いしておきます。

次の質問ですけれども、現在、武雄市では電子黒板やiPadを活用したIT授業ですかね、こういうのが行われておりますけれども、この整備状況についてお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ICT機器につきましては、御理解いただきまして予算化もしていただきまして、現在、

電子黒板の整備状況としまして、黒板型と、それから黒板に張りつけるものもございまして、簡易型がですね。それも含めまして、市内の全学級数に対して、小学校で60台、48%、中学校で24台、47%という整備状況でございます。

また、i P a dにつきましては、山内東小、武内小で国の事業を受けまして進めてもらっているわけですが、山内東小学校に146台、武内小学校に90台、それから、御船が丘小、若木小、北方小に各2台、武雄北中に1台、この少ない台数のところは、特別支援学級の子どもさんたちに有効ではないかということで、利用を今研究してもらっているというふうな状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当いろんな、このごろは授業の教え方が変わって、こういうI Tになったわけでございます。今聞いてみますと、i P a dについては、山内東、武内が整備されているという状況でございます。7月27日やったですかね、武内小学校で授業力向上夏期講座やったですかね、それが行われたときに私も参加させていただきました。そこで、私も初めて見ましたけれども、電子黒板やi P a dでの授業をしている子どもたちを見たら、物すごく楽しそうに取り組んでいたような気がいたします。

そこで、この際、電子黒板については40%ぐらいのあれで整備されておりますけれども、i P a dについても、やっぱり小学校の子どもたちには全校にもできれば配布していただければ、もっと子どもたち、武雄市の子どもたちですから、偏らないで授業ができ、授業の効力も上がるんじゃないかと思えますけど、その辺についてどのように思われるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

電子黒板につきましては、昨年度、学習指導要領が変わりまして、教科書が電子黒板で扱えるということで、小学校、そして今年度の9月から中学校でも電子教科書を4教科で使っております。そういうこともあって、非常に活用が進んでいるわけでございます。

電子黒板にしる、i P a dにしる、非常に子どもたちが興味を持って、興味・関心を高め、頑張っております。議員ごらんになっておわかりだったと思うんですが、子どもたちは余り苦しげにせずですね、非常にアンケートをとりましても90%ぐらいが難しさを感じないという言い方をしております。ただ、教育関係、かなり予算もいただいているわけございまして、i P a dを全部に配置するとなると相当な金額でございます。ただ、私どもとしては、可能な限り整備をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、これを全部に整備するとなると、大きな金がかかるということですがけれども、やはりできれば少しずつですよね、一気にぽんと何十台じゃなくて、例えば今、橘小学校なんか15人とか16人とか、1学年が1台とかあるんですよね。それに一気にじゃなくて、各学校に10台とか、少しずつふやしていただければ、物すごく子どもたちにも楽しい授業ができると思いますので、ひとつその辺は市長、どう思われますか。市長も多分見学に来られたと思いますけれども、子どもたちの動きを……。はい、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは悩ましいところでね、小学校は今、武内と山内東である程度一気に入れて、その効果が物すごくやっぱり出ているわけですよね。一方で、議員御指摘のように、例えば、橘小学校に10台で、朝日小学校に10台とかという、薄く広くという考え方もあろうかと思えます。ここはどういうふうに効果が出るかというのは、教育委員会とよく話をしたいと思っています。

その一方で、これはニュースにもなっていますけれども、北方小学校、中学校、北方の区長会とか、松本前町長さんを中心として扇風機ば寄附しとんさあですもんね。で、恐らくiPadもまたモデルチェンジがあらうかと思えますので、ぜひ議長さんを初めとして、私もそうなんですけど、iPadの保持者は乗りかえるときに、ぜひ寄附を呼びかけたいと思っています。そうすることによって、全然あれですもんね、今、iPadは3代目ですがけれども、1と3で、そがんさほど変わらんとですよ。ですので、そういう意味で、乗りかえられるときは、それば下取りに出さんと、あとは知っとう人にやらんと、僕もすぐにやっしてまいりますので、そうじゃなくて学校にね、例えば、出身校であったりとか、まあ、これは教育委員会でもいいんですけれども、そういう寄附を今回呼びかけようかなと思っています。特にiPadについては長もちしますので、そういう意味で我々が教育を応援しているということ——まあ、寄附だけに頼りませんがね。頼りませんが、そういうのがあれば、よりぬくもりのある応援になるんじゃないかなと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

できる限りでいいですけれども、少しずつ整えていただくようによろしく申し上げます。次に、おつぼ山神籠石の公園化についてお伺いいたします。

土地を買い上げてから、まず五、六年になると思いますけれども、これまで取得された土地、また、取得できなかった土地、その土地がなぜ取得できなかったのか、そしてまた今後、どれぐらいの感じで買っていかれるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

おつぼ山神籠石は、昭和37年に国内で8番目の神籠石として発見されて、神籠石が古代山城であると決定されて、昭和39年に国の史跡に指定されております。平成16年に追加指定を受けまして、約27万平方メートルが指定面積になっております。

今、公有化の状況でございますけど、平成18年度から5カ年計画で着手されておりますが、その後、10カ年計画に変更されて、ことしで7年目になっております。現在の公有化の状況につきましては、全体の27万平方メートルのうち、公有化の対象面積は24万平方メートルでございますけれども、昨年度までに約68%、約16万平方メートルを公有化させてもらっております。今後、今年度に約20%に当たります4万9,000平米をお願いする予定でございます、現在お願いしております。それが済みますと、今年度に87%の公有化が完了できるということになります。

今後の見通しでございますけれども、現在、今年度を含みまして、これからいわゆる区の共有名義の土地が多くなりまして、当時、明治時代の地区の住民の全員の方が名義人になっているという状況でございます。その後、相続人の方がたくさんいらっしゃるということで、1人の登記人の方から、現在の相続人が多数発生しているという状況でございます、今後、そういう相続人を追跡するという非常に厳しい状況であるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

ことしで一応87%ぐらいの成果が出るということでございます。買えない土地は仕方ございませんけれども、できる限り努力して、早急な買い上げをよろしくお願いいたします。

それでは次に、昨年12月から敷地内の伐採を市のほうでしていただきました。今後の管理としてはどのようにしていかれるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

おつぼ山神籠石の環境整備としては、除草作業の管理を区のほうにお願いしております。公有化の開始の19年度からは毎年20万円を予算化して、新たに購入した土地の維持管理についてもお願いをしております。昨年は緊急雇用対策事業のほうで、荒廃した山の竹を中心と

して伐採作業を行いました。ことしは7月にボランティア草刈り等も予定しておりましたが、ちょっと大雨のために中止せざるを得なかったですけど、秋にはまた再度ボランティア草刈り等の計画をするようでございますので、どうぞ市民の皆さんも御協力をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当、あれだけ広い土地でございますので、市で、市でというのも無理なところがあると思います。ボランティアとしてやるということであれば、橘町の方も多分協力をしていただけたと思いますので、早目にそういう計画を橘町にも示していただいて、募集をしていただくようお願いいたします。

それから、今までパブリックコメントや審議会などが数多く多分開かれていると思います。これまでの経過について、また、今後についてどのように進められるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

おつぼ山神籠石の史跡については、昭和52年に周辺の開発から史跡を守るためにということで保存管理計画を作成しております。それで史跡の保護に努めておりますけれども、昭和52年から30年たって、2009年、平成21年ですけど、公有化を進める中で、当初予定しなかった未管理の土地というのが出てきまして、見直しを行っております。

平成23年度に史跡おつぼ山神籠石保存管理計画書というのを策定しております。史跡の適切な管理を通して、史跡の重要な価値を確実に保存継承するために、地域とともにある「おつぼ山」の史跡環境づくりというのをつくっております。この中で古代山城としての整備活用の基本方針をして基本計画を作成しております。平成23年度から保存整備計画策定委員会というのをつくっております。今、議員御指摘のように、地元の皆さんを初め関係者の方からいろんなアイデアをいただきまして、今、計画を作成中でございます。早急に計画を策定しまして、文化庁に認められる整備計画として作り上げて、国のほうから整備計画についても補助が認められますと、国から50%、県から18%の補助事業に活用できますので、そういうのを活用しながら、古代山城としてふさわしい歴史公園として整備事業に取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

本当この公園化に向けて、できる限り早目の対応策をよろしくお願いいたします。

子どもの命を守るという観点から、関連でちょっと1つだけ質問させていただきます。

通常、児童・生徒の通学路の安全点検などの安全対策には、学校、保護者、地域が一体となって取り組んでいただいております。今回、隣町でため池での事故が発生し、幼いとうとい命が奪われました。そこで、学校では水による事故に対して、どのような安全指導を行っていらっしゃるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

9月1日という日に非常に痛ましい事故がありまして、先ほど来っておりますように、安全に学校に行かせ、学校から帰すというのを一番の基盤にしている学校にとっては大変なことであつたろうというふうに思います。聞きますと、市内だけでも四百数十カ所のため池があると聞いております。先日、農林課のほうからその地図もいただきましたので、各学校に配布しまして、特に通学路、遊びで近づきやすいため池等について重点的に指導を行うようにしているところでございます。この面でも注意を払っていきたいというふうに思っておりますが、先ほど市長さんの話にもありましたように、このため池等につきましては、地域の方が一番御存じだろうと思っておりますので、その辺でのお力添えをお願いしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番山崎議員

○13番（山崎鉄好君）〔登壇〕

幼い子どもが亡くなったという、近くにあるため池で亡くなったということでございます。そこで、私からは、もしこれが武雄市で起こる可能性も十分あります、まだまだ。そこで、フェンスとか看板などを設置し、危険を促すような対策を早急にとつていただくよう要望いたします。本当、これは何かあつてからでは大変でございますので、ひとつ早急な対応をよろしくお願いいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で13番山崎議員の質問を終了させていただきます。